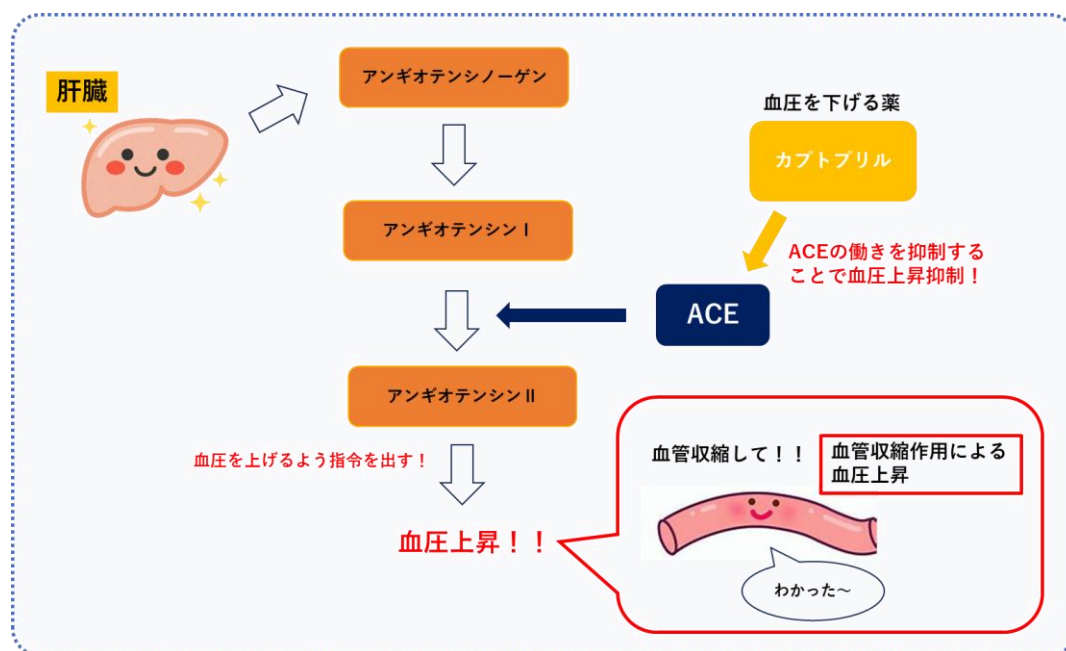


～プラセンタエキスの血圧降下作用について～

☆血圧が上がるメカニズム



私たちの体は運動をすると全身の筋肉が酸素を消費するため、酸素を届けようと血圧を上げて血流の流れが速くなります。血圧は体の様々な状況に応じて上昇したり、下降したりしています。血圧が低下すると、肝臓から出ているアンギオテンシノーゲンという物質がアンギオテンシンIIになり、血圧を上げる指令を出します。このアンギオテンシンIIができる過程でACEと呼ばれる酵素が反応に関わっています。

☆血圧を下げる薬について

高血圧症の治療薬である降圧剤と呼ばれる薬の中には、ACE阻害薬と呼ばれる薬（カプトプリルなど）があります。文字通りACEの働きをブロックし、血圧を上げる指令を出すアンギオテンシンIIを作らないようにすることで血圧を下げる効果があります。

☆プラセンタエキスのACE阻害活性について

降圧剤のカプトプリルとブタプラセンタエキスのACE阻害活性を比較測定した研究があります。結果はブタプラセンタエキスもカプトプリルと同じくACE阻害活性を有するというものでした。これまでも天然のオリゴペプチドやタンパク質の分解物から多数のACE阻害作用のあるオリゴペプチドの存在が確認されています。ブタプラセンタエキスも酵素分解を行っていることから、これまで知られた多くのACE阻害物質のようにオリゴペプチドがACE阻害活性を引き起こしている可能性が高いと言われていました。ペプチドの同定はまだできておらず今後の課題とされているようです。

★総括★

ブタプラセンタエキスにはACE阻害活性により血圧を下げる作用があり、その作用はオリゴペプチドによるものである可能性が高いと考えられています。

参考文献：Masahiko Tebakari, Makiko Matsui, Fumiya Asukabe, Michihiko Kumagai. ブタプラセンタエキスのアンギオテンシンI変換酵素（ACE）阻害活性. 日本補完代替医療学会誌. 2009; 6(1): 35-38